

# 進捗報告書（実行団体）

事業名:	孤立させない！子どもが選択できる居場所
資金分配団体:	一般社団法人 SINKa
実行団体名:	一般社団法人 OMUTA BRIDGE
実施時期:	2021年 7月～ 2022年 2月
事業対象地域:	福岡県
事業対象者:	経済困窮など家庭内に課題を抱える子ども等の支援

Version 1.2

日付： 2021年xx月xx日

## I. 事業概要

事業概要
<p>本団体の組織を構成するメンバーは、教育、福祉、医療、商業等、幅広い領域の第一線で活躍しているメンバーで構成されており、職業としてもそれぞれの立場で子ども支援に関わっている。我々は特定の家庭的環境課題や不登校等の課題を抱えた子ども達はもちろんのこと、課題が表面化していない子ども達との繋がりも強化し、対象を限定しない働きかけを行っている。</p> <p>大人に向けた活動：啓発イベントの開催（自閉症啓発デー、映画の上映、シンポジウム）、研修と対話のプラットフォーム事業の開催（1回/2月）、教育福祉行政連携による子ども支援ツール作成事業</p> <p>子どもに向けた活動：オンライン・オフライン ワークショップ（1回/2月）、オンライン寺子屋（2回/週）、P R e I S（1回/月）、教育機関と連携した子どもまちづくり会社(仮) 2021年度事業</p>

## II. 進捗報告の概要

総括
<p>本事業で申請しているオンライン寺子屋およびP R e I Sは、関わるスタッフの確保、養成に取り組みながら実施。学校や支援機関との連携を通して参加者と丁寧に繋がりがつつ運営を行っている。活動の中で見られた子ども達の変化や力がその場だけのものにならないよう、子ども達の理解を得ながら必要に応じて関係機関等との連携を行うことで、学校や家庭など生活場面でも子ども達の力が生かされるように促している。また、社会への発信として近隣市町への啓発を行い高い関心や反応が得られている。</p>

## III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>①オンライン寺子屋を平日夜に実施。必要に応じてタブレットを貸与。</p> <p>②困難を抱えた子どもを対象にP R e I Sを月に1～2回、週末に実施。参加する子どもの状態に合わせて、生活力を高めるためのプログラムを提供。</p>	<p>①オンライン寺子屋は月・木（祝日除く）で定期開催を行っている。製造会社における生産状況が厳しく、タブレットの確保が難しく、現在50%を確保している状況である。スタッフへの貸与によりオンライン寺子屋内での学習支援やチャット対応などが実施出来ている。</p> <p>②月に1回の定期開催を行っている。参加を希望する子どもも増えているが、対応スタッフのマンパワー的課題があり、受け入れ人数を制限する傾向がある。参加者に合わせたプログラムを実施し、活動報告等を通して啓発にも務めている。</p>

活動	進捗状況	概要
<p>①オンライン寺子屋</p> <p>②P R e I S</p>	ほぼ計画通り	オンライン寺子屋活動は予定通り週に2回の定期開催が出来ている。専門職と学生サポーターが2名一組で対応しており、現状参加者のほとんどは不登校等の課題を抱えた生徒である。生産側の問題でタブレットの確保が困難な状況であるが、今後確保を進める。P R e I S活動は予定通り月に1回定期開催が出来ている。結果的に中学生女子生徒の参加となっており、コミュニケーションスキル向上やストレスマネジメント、生活する力を高めるための知識や経験を重視した活動内容で実施している。

## IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>①オンライン寺子屋について</p> <p>利用対象者は課題（不登校、ひきこもり、自傷行為等）を抱えた子どもたちの利用がほとんどである。その背景として、オンラインの居場所である寺子屋に繋がる参加者は、教員や相談援助職との関わりの中で、一定動機付けされて参加につながっていることがある。おしゃべりがしたい、勉強がしたいなど、利用ニーズが多様化してきたときの対応など、課題となりうる状況も見えてきた。それらのことから、1) 実生活上との連携の強化、2) オンライン上でのコミュニケーションの質について検討、に引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>②P R e I Sについて</p> <p>本事業の目的である「生活力を高めるためのグループワーク」を果たすには、月に1回の開催では不十分である。</p> <p>また、義務教育卒業後の子どもたちの多くは支援者が極端に希薄になってしまう。生活基盤が弱い子ども達が抱える課題（貧困、若年妊娠、精神疾患、自殺等）を考えると、相談できる環境や伴走者の必要性を感じている。現支援者及び卒業者も含め、安心安全な居場所の確保が必要であり、そのための取り組みについて検討したい。また、子ども達が立ち寄りリアルな「場所」の必要性も感じているところである。</p>

## V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥0	¥0	¥2,561,729	#DIV/0!
	管理的経費	¥0	¥0	¥0	¥529,967	#DIV/0!
合計		¥0	¥0	¥0	¥3,091,696	#DIV/0!
補足説明						

## VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>・オンラインの居場所である寺子屋に繋がる経緯としては、チラシやHPを見て自由に参加する子どもは少ない。その背景には、もともと関係性が出ていけば参加しやすいが、知らない大人や大学生がいるオンライン上の居場所に気軽に参加することは難しいという課題が存在する。顔が見える関係を構築するためにも、オフラインでの関わりが大切であると考えている。又、参加するためのインターフェイスの利用に関する障壁もあり、アプリケーションの利用等一定ICTリテラシーやインフラの必要性があり、新しいツールの選択や教育の必要性を感じている。</p> <p>・本活動に関してはニーズや関心も多く、参加を希望する相談も増えてきている。しかし、現スタッフ体制や予算の中では実施に限界があり工夫が必要である。</p> <p>・事業全体を考えると、子ども達に伴走出来る「人の育成」が急務である。オンライン寺子屋は居場所的要素も強いいため、一定の専門性を担保しつつ、斜めの関係なども確保している。P R e I Sは要保護性の高い子どもを対象としているため、より専門性の高い関わりを必要としているが、必ずしも専門職である必要はない。安全を確保するため、子どもと向き合う上でのマナーや連携の在り方について学び経験する機会が必要となっている。</p>

## VII. その他

自由記述

## VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	有	2022年2月末に作成予定で調整中。

## IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	